中学生が学んだ

平和の尊さ

△渡辺さん・樋口さんから伊藤一長　長崎市長へ千羽鶴が手渡されました

△樋口由加里さん（左）・渡辺友浩さん（右）

第19回非核宣言自治体全国大会・青少年プログラムに、中学生２人を派遣

市では、戦後59年がたち風化しつつある原爆被爆の実態と平和の尊さを学ぶとともに、実際に自分たちの目で見て、感じたことをもとに、各地から参加した青少年と交流し、戦争や核兵器のない未来をつくることを目的として市内中学生２人を被爆地である長崎へ、初めて派遣しました。

派遣した２人から感想が寄せられました。

戦争、原爆の恐ろしさ、そして平和の大切さについて多くを学びました

東中学校３年　渡辺　友浩

長崎での二日間、僕は多くのことを感じ、考え、学ぶことができました。

一日目、まず最初に長崎原爆資料館・長崎原爆死没者追悼平和祈念館を訪れました。

原爆資料館では、当時のままのものがとても多く展示してありました。また、被爆直後の長崎で撮られた路上で亡くなられている子供の写真など衝撃的なものがありましたが、被爆の惨状がよく伝わってきました。そして、平和の大切さも改めて感じました。

また、核兵器のない世界を目指すコーナーも設けられており、これからのやるべき事についても学ぶことができ、考えさせられました。また、夜の交流会では、美濃加茂市で開催された平和事業の朗読劇で入場者の方々などにより作られた千羽鶴を長崎市長に渡すことができ、美濃加茂市の平和に対する心が伝わったのであれば幸いだと思います。

二日目には、被爆した建物や記念碑・像などを歩いてまわりました。

平和公園内にある平和祈念像や浦上天主堂、原爆落下中心地などをまわり、歩いたことによって資料館で見ているだけでは分からない被害の大きさというものを感じました。

この二日間を通し、僕は戦争、原爆の恐ろしさ、そして平和の大切さについて多くを学びました。この悲惨な出来事は決して、忘れ去ってはいけないと深く思います。

世界で唯一の被爆国なのだから、いろんな人達に平和を呼びかけていきたい

西中学校２年　樋口　由加里

私はこのプログラムに参加したことで、貴重な体験をすることができました。

それは原爆による被害が本当はどれぐらい酷いものだったかを詳しく知る事ができたことです。原爆によって破壊された建物の写真や今も残っている建物をみると、被爆によって受けた被害がとても大きかったことが分かりました。たった一瞬で多くの人の命や建物を奪ってしまった原爆がとても恐ろしく思いました。

でも、世界には原子爆弾より威力のある核兵器がおよそ3万発あると言われています。

でも、核を持っている国は知られてないとこもろあってきっと3万発以上だと私は思います。

それに、使わずに核兵器などを持つことで、自分達の国は強いと思わせている国もあります。もし、核兵器を持っている国同士が戦争を始めたら。もし、そのどちらかが持っている核兵器を使ったら・・・

きっと日本が落とされた時よりも大きな被害になって多くの命が消えてしまうと思います。

でも、こんな悲しい事をもう繰り返してはダメです。私達の国は世界で唯一の被爆国なのだから、私達がもっともっといろんな人達に平和を呼びかけていかないと同じ事が起きてしまうかもしれません。そんな事がないように、まず自分からできる事をしていきたいです。

青少年プログラムとは・・・

このプログラムは、非核宣言・平和宣言をした自治体で構成する「日本非核宣言自治体協議会」が、毎年開催しています。

全国から若者が集い、被爆体験者の話を聞いたり、原爆資料館等で実際に被爆した品物を見ることにより、原爆被爆の悲惨さと核兵器の恐ろしさ学ぶとともに、フィールドワークとして浦上天主堂や山王神社被爆クスノキなど爆心地付近にある被爆建造物を巡り、当時の惨状を目の当たりにし、平和への思いを再認識することを目的として開催されています。

今回派遣にあたり、市内中学校から参加者を募集し審査の結果、渡辺友浩さん（東中３年）・樋口由加里さん（西中２年）の派遣が決まりました。

△実行委員の皆さんから渡辺さん・樋口さんに千羽鶴が託されました

平和の願いを千羽鶴に託す

さる７月７日、市民実行委員会（森　弓子委員長）の主催による平和朗読劇「この子たちの夏　１９４５．ヒロシマ　ナガサキ」（地人会公演）が文化会館で開催されました。

当日、実行委員会が来場されたみなさんに平和への願いを込めて千羽鶴の製作を呼びかけたところ、約１６００羽の鶴が寄せられました。

そこで、実行委員会では、この折り鶴を被爆地である長崎市に寄贈するため、今回、青少年プログラムに参加する渡辺友浩さんと樋口由加里さんに託しました。